

10. トリガイ 鳥貝



食器協賛: 九谷焼協同組合

◇撮影後のコメント◇

石川県水産総合センターの資料によると、トリガイの養殖は平成26年から本格的に開始し平成27年の出荷を予定しているとのことである。生産者は高い値が付くより大きなサイズを目指すかもしれないが、長さ2.5寸×幅1寸サイズの利用頻度が最も高い。このサイズの量産を願うし、これが生産者利益の最大化に繋がる。(写真は愛知産)

前述のアカガイの項で取り上げたが、県内養殖が軌道に乗った様である。益々発展し、いち早く我々の手に届く様になる事を願って止まない。ただし、年がら年中出荷はNGである。想像であるが、旬をはずした養殖モノは、消費者からそっぽ向かれ、供給過剰を起こし価格暴落し、コスト削減により努力するも、品質低下を起こし、益々需要減、よって養殖事業継続不可、価格高騰見込なし、やむなく撤退・廃業と悪循環に陥りやすい。前述のアカガイにおいても同様である。需要予測はほぼ不可能であるが、欲にかられた節度のない無秩序な生産は、破滅に繋がる一歩であろう。鮮魚分類に限った事ではない。メーカー各位には申し訳ないが、薄型TVの生産・販売がその事例の一つであろう。

味は、淡い甘味と独特な歯応え、噛めば噛むほど甘味が増す。これも外せない。漁師各位は、何故か養殖よりむしろ、その漁獲を望むようだ。獲り甲斐があるらしい。